

このHPで何度も紹介しているアスペルガー症候群。

最近では自閉症スペクトラム（ASD）の一種としてきちんと分類されており、社会的な認知度も向上しているように思います。実際私の周囲でも、以前であれば「あいつはへんな奴だ。」とか。「しょうもないやつだ」と疎外されていたような方に対して、「彼はきっとASDだからうまく付き合っていこうよ」というような感じの方もおります。

とはいえ本人が「私はASDです。」とカミングアウトするわけでもなし、本人はそもそもASDもアスペルガー症候群も知らないケースだってある中で、周囲が思い込みだけで勝手に決めつけるのも良くないし、周囲の方の多くは「仕方ないな」と自分自身や同僚・部下を納得させる材料が欲しいだけのようにも思えます。

つまり、付き合いづらいなという周囲の方々の思いそのものが変わったわけではないように思うのです。

また事実、最近では、ネット記事や書物でアスペルガー症候群やASDが取り上げられることを度々見かけるようにはなりましたが、まだまだ、「取り扱いに苦労する方々とどう付き合えばよいか」的な目線、つまり上から目線のものが多いのです。

ASDの方が自ら自分のことを書いている文献はかなり少ないので、本人がどう思っているかは一般的には想像しにくいのですが、私も含めて、ちょっとばかりASDを理解している気になってしまっているが、実はほんの入り口にいるだけの方々にとって、「ASDの方には自分が周囲の方々とはちょっとばかり思考や感覚が異なるという点に自分から気づく方が少ない」為、ASDの方自身は「何故自分は正しいことをしているのに周囲は理解してくれないのか。」と思っているに違いないと決めつけがちになります。

その決めつけ故、一般の方と比べると「何か」が欠けている方に対する上から目線になってしまうのではないのでしょうか。まあこれも勝手な思い込みかもしれませんが、少なくとも、多様な個性や特性を持つ方々に、それぞれが持つ本人の長所の部分を活かして、いかに活躍してもらうかという目線、いわば横から目線の方は少ないようにも思います。

つまりは、私が大切だと思っている、周囲の人々の考え方や反応の多様性を自然と理解し、認めるという初歩的な多様性への融和の域を一気に飛び越えて、性別の多様性、年齢の多用性、人種の多様性、更には生物の多様性を認めましよう的な壮大とも言えるレベルの理解を示そうとする方が多いのです。完全に上から目線。

いいかげんに横から目線にしましょうよ。

私の周囲にも、仕事の方向性が私の指示と全く違うことを指摘すると「私のどこが悪いのですか」とおっしゃる方が何人かいるのも事実ですし、書物やネットでASDやアスペルガー症候群について調べてみると、ASD方のほとんどは自分を客観的に見ることができないと書かれています。でも、だからと言って上から目線で接しているうちは、ASDの方々に活躍してもらう環境を作るのにはほど遠いですよね。

だってよ〜く考えてみてください。自分のことを客観的に見ることや、相手の気持ちや受け止め方に配慮することができない単なる自分勝手な方は私の周囲にだって大勢いますし、電車の中で人の足を踏んづけたり、人を小突きながらスマホを眺めていても、謝るような人は10人中1人いるかないかです。もしかしたら私の周囲だけかもしれませんが、今の世の中、自分を客観的に見たり、相手の気持ちに配慮すること自体が「特殊技能」であるとさえ言えます。

私自身だって、多少のことには目をつむって、彼らの長所を生かしていくのが最善策だと上から目線で思うことはあります。でもそんな考えに基づく行動は周囲の方々から、それは不公平だとか、彼だけ何でルールを守らなくて許されるのかとか、そんな感じの苦情を招いてしまうのです。だって、一般的になったと思われる育児や介護を理由にした短時間勤務ですら、企業内の制度で認められているケースが多いにもかかわらず、周囲の方が不満を持つのは普通のことですよ。逆に、「自分と対等な関係のはずの誰かが何かしら優遇されているのはずい」という思いは、まあまあ横から目線と言えるのかもしれませんが、実はいい傾向なのかもしれません。

私は経験上、何か秀でた能力のあるASDの方とは、理解のある友人として接したほうが、彼の能力をうまく発揮してもらい、周囲の方にもその彼の能力(一面)をきちんと認めてもらえれば、彼の居場所を作りやすいと思っています。

まあこんな私のもの言いも、そもそも上から目線なのかもしれませんが、今の世の中ダイバーシティというお題目を企業が掲げても、多様な境遇の方々の色々な能力を、色々な働き方の中で生かすなんてことは難しいのがまだまだ現状です。

だって、まだまだ企業、特に昔ながらの大企業のダイバーシティなんて、無理やり女性の管理職を本人の能力に関わらず人数揃えで当用するようなレベルです。決して、対等なわけではなく、不満を抱く方も多いでしょう。夫が育児休暇を取る制度が法律にバックアップされ、利用者も稀に見かけますが、まだまだ、周囲の反応としては、勇気あるなあというのが一般的ですよ。

ABWやテレワークという言葉も一般化してきましたが、自宅や出先での勤務を試行している企業も多いようですが、あの人だけずるいという考え方は簡単には払拭できないでしょうね。

(注、新型コロナ以前に書かれた文章です。)

この「周囲の方の思い」つまり横から目線にうまく配慮できるかどうか、色々な立場・状況の方を垣根なく普通に活用する為には大事なことであり、その色々な状況のひとつがASDなのだとは私は思っています。

ASDの方の中には、社会経験を積んでいくに従って、自分は周りとはちょっと違うと気付き、自らの行動を修正しようとする人が結構いるそうです。

私の周囲にもそんな方がいて、本人は十分に周囲の方に配慮しているつもりなのですが、突然休んでしまったり、うまくいかないと仕事を投げ出すとかいった特徴的な行動がだんだん顕在化し、周囲の方のおおきな不満につながります。そんな時、私が本人にアドバイスすれば、本人も気づいてくれて行動を修正し、周囲の方の不満を和らげることができるのです。

そんな時の私は、上司としてでもなく、同僚としてでもなく、あくまで友人としてその方に接しています。大事な友だからです。

ここで私が気付いたこともあります。彼だけ優遇されてずるいというような不満を言うのは、いつも何故か、自分自身が大した仕事をしないばかりなのです。しかも自分は仕事が出来ていないという認識はない方々です。不思議なことに、一生懸命頑張ってきた成果を出している方は同僚への不満をほとんど言わないのです。

成果を出している方にとっては、自分と周囲を比較するのではなく、自分が頑張ったことへの評価(色々な意味で)のほうが大事なのでしょう。理屈からすれば、チームとして活動したほうが成果も大きくなるはずではありますが、往々にしてチームで活動しようとすると足を引っ張る方も多いので、ハイパフォーマーな方は案外個人主義だったりします。

まあ、他人への興味が有ろうが、無かろうが、職場には色々な性格の方がいるので、そんな色々な方々に、横から目線できちんと配慮することが、企業で仕事をしていくためには必要なのだと思います。

アスペルガー症候群、ASDの方々は配慮されるべき障害を持つ方々なのではなく、本来の能力を引出して活躍するべき個性を持つ方々なのです。